

# おおよまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成20年  
4月号

毎月23日発行  
通巻452号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成20年4月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷 監  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★振替口座 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



大倭神宮門扉の鎧矢 矢追房子さん撮影(関連記事・5頁)

昭和38(1963)年4月23日 月次祭法話より

## 自然現象と霊界、そして私達の心

法主 矢追 日聖(満51歳)

この四月の二十三日は、朝から雨が降って本当に新緑の世界でございますが、今年には雨が多く、どうも気候が不順なようで、我々人間の生活に対してあまり良くない結果が出て来ているようです。

天候異変のような問題については、科学者がいろんな方面から研究もし、その原因というものを説明出来るはずなのにこんなこと申しますと科学者に笑われるかも知れません。しかし、それを私たちが見た場合、こうした自然現象を引き起こす天地自然の大いなる気というものと、我々人間の心や気というものは、通ずるものがあるんです。

我々のこの肉体が受胎してこの世に生を受けるときに、天地自然の生命の力というものの、宇宙の根本神霊の一つの分け御霊<sup>みたま</sup>というものが、我々の身体に宿ります。それによって、私たちはこうして一年一年成長もしていくし、ものを考える力も出て来る。これは自然界の植物であろうと一般の動物であろうと人間であろうと同じことなんです。

この生命力というものに気が付かず、自分が自分で勝手に働いて、勝手に飯を食うて生きてると思ってる人が案外多いんです。けれども、事実は天地自然のいろいろな力とか恵みによって、我々は生かされておるということをまず認識しなければいけない。

### 今も苦しんでいる戦死者

皆さんも気が付いておるかも知れませ

んが、我々人間世界とは別の世界において、過去の幾多の人間が、我々と同じような生活をしているんです。これは靈魂、魂の世界です。そこでの生活というものは、五十年あるいは八十年という短い人生を歩んで、残して来た自分の実績の延長です。つまり現界での生活を原因とした結果が、その世界においての生活態度になるんです。

例えば、この現界において人を泣かしたり、人の物を盗んだりというような悪事をやっておった人が、靈の世界に行つた場合に、今度はその罪の報いというものを受けるんですね。だから靈の世界と現界とは裏表の関係になっておるんです。

そういう観点から、現在における靈の世界を我々が眺めた時に、まず大東亜戦争があります。武力によって制覇していこうというような、一つの大きな人殺し事件が、ほんの少し前にあつたわけです。現在においてもまだ、世界のあちらこちらで戦争をやっておりますので、それで死んでいる人も沢山いるんです。

そういうような人たちは、英雄として西方浄土の極楽の世界におけるような教え方を過去にはよくしてました。けれども、実際戦争では殺伐たる悪魔か修羅のような心境で死んでおる人が大部分なので、やはりそのような世界を自分で作つて自分で皆苦しんでいるんです。

靖国神社にも、各府県の護国神社にも祭られてはおりますけれども、靈の世界を見た場合、本当は苦しんでるんです。神様として形だけ神社に祭つても、その戦死した人が皆神さんになつておるかといえは絶対そうじゃないんです。

その人たちの、苦しみを誰かにわかつて助けてもらいたいという想い、これは念ですけれども、その靈界からの波長は、やはり一番縁の近い者、例えば自分の兄弟とか親とか子供とかに流れ出て

来るんですね。そうした時に、その死んだ人の心に近いようなものを味わうような状態が、もちろん物や形は違いますが、現在生きておる家族や家庭に出て来るんです。それは商売の上を通し、病氣を通し、家族の不和とか争いとかいざござとかを通して現界に出て来てる場合が多いんですね。

これは小さい話ですけども。

### 靈魂を荒らす墳墓の破壊

もう一つは、大東亜戦争よりまだもつと時代が古いんですけども、過去においてかなりの地位にもおり、かなりの靈的な力のある人たちの墳墓というものがたくさん存在しているはずなんです。これは高塚式の墳墓ですから、誰が見てもわかります。例えば田んぼの真ん中にある、瓢箪のような形をして周囲に堀のあるような塚。奈良の明日香千塚も今は後方を砕いておりますけども、このような塚のことを前方後円墳と言つておるんです。

そのような所は、大阪府泉州、河内あるいは摂津の方面、大和川の流域と大和の盆地にかけてたくさんあるんですが、今言つたような靈界に入つても相当高い地位におるような人たちの荒御靈、靈魂というものゝの安住の地で、奥津城とも言つておるんです。

それを今の時代になつて、近畿地区、特に大阪あるいは奈良というような所に近代文化の波が押し寄せ、宅地造成が盛んにやられています。山を取り砕きブルドーザーで地ならしして、そういうような塚は皆砕いてしまつておるんです。

一般文化人はそれをただ史跡の破壊として憂いておりますけども、私たちはもう一歩前進してその奥を見た場合に、それは靈魂が鎮まつておる場

所まで破壊してしまうということになるんですね。ところが形は無くなつても、そこにおる靈魂というものは、ブルドーザーで押そうが、あるいは火薬で発破かけようがね、どこにも行かないんです。靈魂とは波長ですから、そんな性質のものは永久にその場所にあるんです。

解り易く人間的な言い方をすれば、そういうふうに荒された靈魂というものは、やはり皆気持ちが悪くなるということになってくるんです。そんな人たちの靈魂が、靈界において渦を巻いているんです。それは大自然に通じてきて、その地区に住まいする人間というものに対して、かなりの悪い影響を及ぼすような結果が起きてきます。それは風、雨、天候の異変、地震といった現象となり、いろいろな災害が起こつてくるんです。雪が降ればそれでたくさんの方が死ぬ。そしてまた、暖冬異変とか言つて急にぬくうなつてくると、雪がいつべんに溶けて今度は洪水で大勢の人が難儀をすることもあります。

あるいは、特に最近では自動車などの交通事故となり、やはり相当な人が死ぬんです。

元々この天地自然というものは、我々人類あるいは動物とか全てのものを保護し、全てのものを育てていくというように動いておるはずなんです。けれども、そうした自然の災害によって、我々人類が大きな苦痛を持つということとは、私たち現代人の考え方、心というものが天に通じていないということになるんです。

だから、自然現象を見て私たちは考えなければいけない。

### 日本の罪とその楔

近くは大東亜戦争から始まつて、徳川時代、ま

たその前は戦国時代とか、ぼつぼつとでも日本の過去の歴史を見た場合に、とにかく闘争また闘争と、人間に与えられた知恵というものを、いろいろ悪い方に利用してきています。人を騙し、権力とか腕力とか武力とかによって社会を制覇し、天下の実権を取ろうというような考えでもって、今日までやってきているんですね。それで、五百年も千年も前から、そのような罪悪を積み重ねた人たちが霊界におるんです。

過去の、そういう罪を持って霊の世界で苦しんで生活してきた人たちが、仮に今のこの平和な時代に生まれて来たとしても、前の世から持って来た悪因縁によって人を斬ったり人を殺したり、というようなことを本質的にやりたくなってくる。悪いことだとわかっていながらも、悪いことをせざるを得んというような心境になってくるという事は、前の世から持って来た悪因縁がそうさせるんです。

そういう人たちがたくさん日本にも生まれて来ておつたがためにですね、アメリカというような大国、あるいは世界を相手にでも戦争を引き起こしているんです。これは現代の人間だけが悪いんじゃないんですね。日本の国自体にそうした一つの宿命的なものがあったわけなんです。

それでも過去の日本には、我々と血の通つたご先祖さんで善霊の人格神もたくさんおられるんです。そういうような善霊のお陰で、戦争に負けたとはいえ、立派に復興してきているんですね。例えば機械工業にしても人間の知能にしても学力にしても、現在の日本の状態を見た場合に、決して世界の人たちに對して劣るということはないと思うんです。けれども、一応戦争に負けたということがあるんで、今の日本の文化、生活あるいは世界的な地位は、いまだに世界の水準まで行ってない

ように扱われておりますが。

大和民族はそのように優秀なんですけれども、日本には今言うたような過去においての幾多の罪障がある。それが社会に出て来て大東亜戦争という大禍を始めたんですね。その敗戦によって日本は、過去の国家的罪悪というものが、かなり消滅できたと思うんです。

### 今この時代に必要なこと

それで現在生き残っておる私たちがですよ、ここで本当の神の心に添うような社会に仕上げていかなきゃいけない。そういう意味において、宗教というものが今の時代非常に必要に迫られておるんです。

奈良もこの三十日に市長とか市会議員の選挙があるんで、あちらこちら拡声器を使って政見発表をやっておる最中ですが、政治は政治家に任しておけばいいんです。どんな立派な政治家が出て、政治的な技術がいかに向上しても、我々人間社会の一人一人に善意ある正しい心がなければ、その裏が出て来ます。

例えば立派な法律を作っても、人間一人一人の心が悪ければ、法律の裏をかいて悪事を働くということになるんです。政治とか憲法とか条例とかは人間が作るもんですから、人間がまた、それを利用して悪いことをするのは、た易いことなんです。

だから立派な政治家も必要だけど、それよりも一般社会の我々一人一人が、この世の中を住み易く幸福に暮らしてゆけるようにするために、どうすればいいのだろうかと考える必要があるんです。それには、天地自然の本当の神意に添うた宗教理念というようなもので自分の心を写し、現在

よりも明日、そして明日よりもあさつてと、息の根が止まるまで自己を向上させていくように努めていくことが必要です。

これは大倭教だけでなく、キリスト教であろうと神道であろうと仏教であろうと、そうした目的においては、皆同じことです。我々人類がどんなに肌の色が変わっておろうと、民族が違っておろうと、習慣が違っておろうと、あるいは領土が違っておつても、その人たちが皆が幸せにいけるような社会を作っていきたい、また作っていこうという事なんです。

ある哲学者が「宇宙一切のもの、万有は同根である」と申しました。最初の出發は一つであると言っておるんですね。それと同じことで、今現在いろんな宗派、教派というものが無数に出来ておりますけれども、元は同じなんです。

結局これは池田首相が言っておるように人作りなんです。まあ池田さんなんかは政治的に人を作っていることと思っておられるのかも知れませんが、我々は「神の道、神の心によって立派な人を作っていこう」ということ。これが宗教の行き方なんです。

現在のようにいろいろ科学も進歩してくると、その反面我々の生活も段々と煩わしくなってくる。このような社会においては、学識とか学問をし過ぎて頭ばっかり進み、その中にいるんな物が入り過ぎている人たちがいます。そのような人たちは、自ら自分の体に病氣を作って、いわゆる精神病、神経衰弱になり易いんです。

そうしたインテリの人たちであればあるほど、自分たちの知識を善用し、社会の力になってそれを浄化していこうとすれば、宗教の力を借りなさいいけない。

宗教的な信念を持つことにおいて自分たちの頭

脳というものが、良い方に利用できるからです。もし宗教的信念がなくして頭ばかり良い人は、皆精神的にまいって意志とか信念とか気が薄弱になり、頭を良い方に利用できなくなってしまうんです。今の時代において世界の識者が、宗教の本質に基づいた真面目な宗教を必要としているんです。

## 大倭主義

ところが情けないことに狭い日本の国を眺めますと、自分の利益だけを考えて他人のことを考えないような悪質な宗教が非常に発展していく。結局は、現代の我々人間生活の中において、本当の真面目な宗教というのが、まだ無いと言ってもいくらいなんです。

真の宗教というのは、天地自然の本当の理、天地の法則に合うた教えでなきゃならん。そしてまた、我々が信仰を持つということも、宇宙の大法に対して絶対的に帰依する信仰でなければいけないんです。それで皆がそういうような状態になつてくれば、天地自然のいろんな災いというのが恐らく出て来ないのが本当なんです。

そうした社会は非常に望ましいんですけども、これは一朝一夕にはいきません。

いつもお話ししますように、それにはまず自分たち人間個人が、自分を良く知ることなんです。「自分という人間はどんな人間で、どういうような宿命でもつてこの現代に生まれて来たんだろうか？」というようなことを反省し、そしてまた「自分の欠点と長所はどこにあるか？」と、自分で自分を振り返ってみること。これは何でもないことのようなんですけども、かなりの努力と修養をしなければ出来ない、非常に難しいことなんです。

すね。

さらに、神意に添った社会にしていこうとした時に、知るだけではいけないんです。自分の欠点を知つたなら直すように努めなければいけない。また自分の宿命というものを自分で悟れば、信念を持つて、それを実行に移していかなければいけない。要するに、一つの主義でもつて通さなきゃいけないんです。人がこうしてるから自分もこうしようだとかいうような弱い信念であれば、社会の改造というものは出来ません。

大倭のこの教えの内容は、別にむづかしいことではないんです。今日は月次祭ですから、こうして神様に手を合わす礼拝や祭壇に向かって儀式もやりますけれども、大倭教の教理はこうであるというものであるというように、百曼陀羅言い並べても、これはもう過去の幾多の立派な方が言つておられることと結局同じことなんです。

宗教の本質というのは、一つの教えを自分の魂の中に植え付けていくことです。我々が信仰するご本尊というものは、我々の心の中になければいけない。道を歩いていても、仕事をしていても、常に自分が信じる神というものは自分の心の中にある自分の魂なんです。だから何をやるにしても、信仰のご本尊を我々は常に持つて歩いているという気持ちで、感謝を持つた日々を暮らし、喜びを持つた人生を作り上げていくことです。

迷いがあつたり不平が出たり不満があつたりするということとは、結局自己というものを知らないということなんです。自分を自分でよく知れば、何でもないことでも、それは皆、喜びと感謝になるはずなんです。喜びを持ってないような間は本当に信仰しておると言えないんです。

絶対的に信仰するということは理屈じゃないんです。だからそこまでが難しい。それには否定否

定で、道を疑つてかかつたらいいんです。そこでもつて疑うことが出来なければ、これはもう信じるしかない。そういう意味合いにおいての信じるということは盲信じゃないんです。

そして信じたならば、その裏には必ず信じたことを実行に移す実践というものが要る。これはいわゆる一つの主義ですね。だから大倭教を信仰しておつて、その生き方通りにいくというのは「大倭主義」ということになるんです。

それを実践して、我々の仕事の中においても、日々の生活においても、自分たちの家庭の中においても、そこに大倭の教えに基づいた生活態度というものが滲み出てこなければ、大倭の信者とは言えないわけなんです。逆に大倭と関係なくとも、神様の心さえ自分の心を持つて、不平不満なくして、喜びの心を持つて日々生活できるような人たちは皆大倭の信者と同じなんです。

大倭ということとは、「大親元」ということで、神様の故郷ということなんです。何もこの私の大倭教という宗教の名称ではないんです。親元ということとは、自分たちの親のいる所、我々の祖先のいる所です。大親元とは、宇宙の根本ですから親元のまだもう一つ奥なんです。ということとは、この大宇宙の造化の三神です。

『日本書紀』には、天御中主神、高皇産靈神、神皇産靈神が、造化の三神だと書かれております。それは形のある神様ではなく、天地自然を最初に創り上げた宇宙の一つの気というものを指しているんです。これが大倭ということなんです。

ですから皆さんには、どうかその大倭の心に添った主義を、仕事や生活の中で実践し、天地自然の気を良い方へ持つていけるようにと、日々心掛けてほしいと思うんです。

こもれる魂魄の地を訪ねて 第31回

やおいのみちまろ ことりへのようつ

## 箭負道麻呂と捕鳥部萬と犬の事(下)

大阪府池田市

平谷 照子

『日本書紀』の崇峻天皇即位前紀秋七月の条に、物部守屋大連資人捕鳥部萬とあり、アー、このことかと思つて、ひよつと右横を見ると、「……：迹見首赤禰……」とあるのです。

この迹見赤禰とは、法主さまによりますと箭負道麻呂のことであり、箭負(矢追)家の遠祖になる人であります。何だか問題が一つ増えたような気がいたしました。

早速、翌日の(平成七年)五月七日に岸和田市を訪ねて、溝口さん夫妻と親戚の方、飼犬のモモちゃん和白い犬と連立つて、天神山公園の捕鳥部萬の墓にまいりました。墓標と立派な墓碑が建っていました。



邦子さんが用意の水をかけて墓碑の石をうるおし、文字を浮き立ててくれました。それでも建てた年月が読み取れませんでした。関与した人は、旧岸和田藩主の岡部氏、明治維新の功労者である時の内大臣 三条実美公爵、本居豊顕氏(国学者本居宣長の曾孫)という名が読めました。

捕鳥部萬の墓に詣でた後、やるかたない悲しき

を覚えたという林修三さんと共に、五月十二日、大倭を訪れました。林さんによると、貝塚市には阿理莫神社というのがあり、ご祭神は大倭神宮と同じ饒速日命だし、萬が逃げて行った辺りは物部一族の和泉における根拠地ということ。そう言えば、以前は岸和田から何人か大倭に来ていたナとは、鈴月かあさんの話。

法主さまが、書齋から『大阪府史蹟名勝天然記念物』の「岸和田の部」を持ってきてもらいたいと、高橋良美さんに言われました。その本には、見事に「捕鳥部萬墓附犬墓」有真香村大字八田があるではありませんか。

お借りして帰つて熟読すると、建てたのは明治二十二年五月ですが、企画は明治三年、藩知事であった岡部氏による。墓標はそれ以前からあったようです。

江戸時代末、国学者で神道家の平田篤胤は、門人らが筆記した『出定笑語講本』という本で、守屋を大忠臣、萬のことを見上げた人物と賞賛しています。反対に迹見赤禰については、憎い奴であると言っています。守屋は、迹見赤禰の放つた矢によって射殺されたからです。

箭負家の言い伝えによると、この迹見赤禰こと箭負道麻呂は、聖徳太子の側近で、扶育官であったということ。聖徳太子が十六歳の時、仏教受容派の蘇我氏(朝廷側)と、排仏派の物部氏で争いが起こります。蘇我氏の血をひく太子は、蘇我方について戦場に出られたのです。

『日本書紀』にもありますが物部方は非常に強

く、蘇我方は三度も敗退したのです。そこで聖徳太子が戦勝祈願されたのが大倭の神の杜であったそうです。太子が馬をつながれたのが、現在の大倭神宮の、あの藤の木で、この故事によって「藤の木」の地名が生まれたと言います。

太子を、この杜にお連れしたのが道麻呂でした。弓の名人で、いつも箭(矢)を背負っている道麻呂を、人は箭負の道麻呂と呼んだのです。古代における登美の大倭の杜は、長曾根日子系の人々(物部氏)が、饒速日命を祀った神地であり、饒速日命を祀ったということにおいては、これが最古であります。推古天皇(聖徳太子の叔母、太子はその摂政)の時に、社殿が建てられたということ。

法主さまの母堂日妙師の霊視されたところにありますと、道麻呂は、神前に九本の矢を供え、勝利を念じたそうです。その九本の矢の内一本の鏑矢(※音の出る、開戦の合図の矢)に物部守屋必殺の念力をこめられたのは、奇稲田姫であったそうです。今、神宮の内苑に通じる門扉は、鏑矢を並べ立てた趣を見せております(表紙写真)。

功労者として道麻呂の賜った領地を「八尾」と言うのは、箭負が転じたということ。

道麻呂は、物部一族です。しかし聖徳太子との深く結ばれた関係ゆえに、蘇我方に身をおいて、敵味方に分かれながら、道麻呂は守屋のことを心配していたのではないのでしょうか。というのは『日本書紀』に、始め守屋方であったが、蘇我方が優勢になると、守屋を裏切ったという人物を、道麻呂が切り殺したということも書かれているからです。

奇稲田姫の念力がなければ、守屋を倒すことなどできなかつたかもしれません。国つ神の奇稲田姫の巨視的な判断とは……：日本の国がアジアの中

で、中国 朝鮮と交わって落ちこぼれないためには、仏教や大陸の文物制度を輸入することも必要であるということだったのでしょうか。

迹見首は、登美首と書かれている書物もあります。登美というのは地名です。地名に、首という姓がつく人は、屯倉（朝廷の直轄領）の管掌者です。地方豪族という地位です。赤禱という名前を考えると、イチイガシのことです。イチイガシは強靱で、鋤、鍬の柄、土木用具の材にもなります。農耕と関係があることを現しているようです。

捕鳥部（鳥取部）は鳥を捕獲し、飼育する技術を世襲していた集団です。物部氏の勢力の一つだったようです。

どちらも弓の達人で、物部氏につながる道麻呂と萬が、この世に生存中、お互いを全く知らなかったとは思われません。迹見（登美）赤禱、またの名、箭負道麻呂をライトアップさせるための先導者として、捕鳥部萬を感じる時、物部守屋必殺の任務を負わせた奇稲田姫の「ねぎらい」の心を受けとめるのです……千四百年の歳月を経て。

箭負（矢追）家の伝承を、しみじみ味わう機会をもたらして頂いた溝口さん夫妻、林修三さんとあの白い犬に感謝します。白い犬に幸あれと願っています。  
(平成7年6月13日)

## 交差点 7

あじさい屋 中島木綿貴 (20歳)

\*トリマーの専門学校卒業を前に、昨年のヨーロッパに続くアメリカ研修旅行記です。

この原稿を依頼して頂いたのですが、私の中で色々複雑な想いや進む道への不安があり、勝手ながら「旅行記」どころではなくお断りしようと思っていました。しかし進む道も決まり心に余裕も生まれ、書かせて頂く事に決めました。

2月9日(※法主帰幽祭) 出発。不安に思っていたら案の定、大雪。

最初の計画では、関空まで友達のお父さんに送ってもらはずでしたが、第二阪奈がストップしてやむなく電車で行くはめに。早めに出たので近鉄学園前行のバスを1時間ほど待ちましたが、それからは何事もなく飛行機にも間に合いました。  
**(ニューヨーク)** ホテルに着いたのが夜中だったのでチェックイン後、すぐに就寝。私はどこでも寝られるたくましさがあったので、大丈夫でしたが、皆、長時間のフライトで疲れ、ぐったりしていました。

翌日は朝から自由行動、昼から観光でした。でも日曜日だったので、OPENが11時か12時。自由行動で買い物できるのは1時間ちよつとだったので、皆、猛ダッシュでお目当ての物やお土産を買っていました。

そして昼からはガイドさん付きの観光をし、夕食を食べホテルへ。夕食のメニューは忘れましたが、友達は口に合わない物が多かったようでした。私は何でもおいしく頂けたので、食には全く苦労しませんでした。でも去年のヨーロッパ旅行で体重がありえない事になってしまったので、友達に「お菓子食べない宣言」を出発前におきました。

そして次の日から2日間が、Dog Show。昨年のイギリスでは家庭犬も出ていたのですが、まだまだ未熟者の私達には、Show用の犬との見分けが難しかったです。しかし今回は、各地から選び抜かれたShow用の犬のみを審査するので、本当にきれいな犬達を間近で見ることができました。やはりShowの犬を扱うトリマーさんはトリミングを楽しみ、良い意味での緊張感を持ちながら行っていてすごく勉強になりました。知らない犬種や図鑑でしか見た事のない犬種、

日本で見えていたら雑種にしか思えない犬まで、様々な犬を見て、とても刺激的な2日間でした。

**(アナハイム)** 翌朝5時半に集合し、途中、サンフランシスコを観光しつつ、デイズニールランドのあるアナハイムへ。ニューヨークよりもだんぜんホテルがきれいでした。シャワーだけでなくバスタブもちゃんとするし、シングルベッドでもさすがアメリカ!という大きさでした。

私はツインの部屋に3人で泊るはずが、簡易ベッドの用意がありませんでした。夕食の時、添乗員のターニー(谷川さん)に「ベッド来る?」と聞くと、顔を赤くして「行っていないの?」と聞くので、言葉をましがえたと慌てて訂正。そのお陰もあってか、「ゆうき」と呼んでもらえ、去年より添乗員さんと仲良くなれました。

サンフランシスコにはデイズニールランドが2種類。私達の行ったのは小規模なお子様向けの方でした。友達全員が超がつかりで、日本の方が面白い、シンデレラ城じゃなくてシヨポデレラ城やとか言っていました。私は人生初のデイズニールランドだったので、たつぷり楽しめました。現地の方は、アトラクションの待ち時間も超ラブラブで、友達と「うらやましい!」と叫んでいました。夕食でボリウムにびつくりのステーキを食べホテルへ帰り、帰国の荷物を整理しました。

翌早朝、朝食もとらずに空港へ。また10何時間のフライト後、日本に着陸しました。皆に挨拶をしてゲートを抜けると、私にとつてなくてはならない人のお出迎え! 一番、幸せな瞬間でした。今回の旅で私が学んだのは、トリミングのすばらしさをもとより、団体行動の厳しさを、人間のおもしろさです。普段少ししか時間を共有していない先生の、素みたいなどころも見出せて楽しい8日間の旅になりました。

## 法主様から学んだ 神ながらの道

大阪府八尾市

押川康宣（64歳）

大倭を離れてから36年、64歳になった現在、私のその後の生き方、意識の根底に「神ながらの道」があり、法主様から受けた感化と頂いたご恩、紫陽花邑で過ごした体験とその後の関わりが今、必然のご縁として有り難く甦っています。

大倭を初めて訪れたのは大学1年の時、FIWCキャンパーとして大倭安宿苑の労働奉仕活動に参加、そのあと「むすびの家」建設に向けての準備活動に参画いたしました。

しかし私は大学1年の2月、父の個人事業失敗による借金を返済せねばならなくなったため急遽休学し、働き始めました。昼は会社勤務、夜は毎日家庭教師という生活を続けていましたが、3カ月くらい経った頃から眠れなくなり、駅のホームに立つと電車が私に目の前にぶつかってくる錯覚に幾度も襲われ、一度は線路に飛び込んで助けられ、自殺という言葉が頭に浮かんでくるようになっていました。死にたいというのではなく、死ぬかも知れないという恐怖感を感じておりました。そんなある日、大倭から「法主さんが会いに来なさいとおっしゃっているよ」という電話が入りました。「むすびの家」の準備活動でいくぶんお顔を知っていた程度でしたが、翌日すぐ大倭に行き日聖法主さんにお会いすると、「家のことはちゃんとするから心配せんでよい。今日から大倭ブロックで働きなさい。なにも考えずに働いたら治る」と言われその日から大倭に住み込みました。

ブロックを仕上げる蒸気をボイラー室で深夜まで焚き、目が覚めると働くという日々を数カ月送り、私は命を救われました。今もあの時の数カ月間の記憶は、空白はありますが私の生きる原点です。

そして私は心身共に完全回復し1年後、復学しました。借金返済がありましたので授業料を免除していただき、家庭教師と短期アルバイトをしながら大学をなんとか卒業いたしました。父の借金は15年かかりましたが大倭を離れてから6年後、35歳のとき返済を終えることができました。

卒業前に、大倭印刷所を始めたので就職が決まっていなかったのならば来ないかとの誘いが大倭からあり、短期間ならと就職いたしました。現中島健社長と職人さんと私の3人でのスタートでした。大学を出たばかりの世間知らずで印刷には全くの門外漢の私でしたので、営業しかできず印刷全般が分かるのに相当時間がかかりました。

1週間の内、半分は大阪市内の自宅、半分は印刷所の2階で泊まるという生活で大倭の皆さんと異なる勤務パターンのため大変迷惑をかけましたが、紫陽花邑の邑人、家族として扱っていただき、生きがいに満ちた楽しい日々を送りました。毎夜の如く法主さんを囲み、先に旅立った柴地則之さん、杉本順一さん、中島健さん、時には「むすびの家」建設中のキャンパーも入り、「大倭不夜城」になり「顕幽一体」の境地を味わい知り得た時もありました。

大倭に縁ある人たちの霊的な体験、目前に現れる霊的事実、そして私自身の霊的な感応を通して、私たち肉体を持つている人間「現界人」と、肉体を持たない人間「霊界人」も同じ人間であり、死んでいても生きていても同じことであることを味わうこともありました。

法主様からは、大倭の地では私たちのご祖先様、

いわゆる霊界人も現界人も一堂に集まり仲良く楽しく暮らすのが宗教の根本であり、これが大倭の「神ながらの道」だよと易しく簡潔に法話や日常の会話で教わりました。大倭教は「神ながらの宗教」であり、天地自然界に流れている摂理、宇宙の大法則を人間的に受け取って、私たち「現界人」がこの自然の摂理を、人生を歩んで行く一つの指針、方法としてゆけば「神ながらの道」ということになるのだと何とか理解はできました。

しかし、それを私の生きる指針にするとか、実践するというのは程遠い、空をつかむような話でありました。大倭でこのような体験をした私は4年後、止む無き家庭事情により大倭を離れ、29歳で一般社会人としての人生を歩み出しました。大倭印刷に縁あつた方のご紹介で飯田グループという大阪の酒類食品総合商社に転職し、30余年間勤務いたしました。

企業人としての人生を振り返って見ると、これまでの人生の分岐点、苦難が訪れるとその度に不思議に新たな人との出会い、事象が出てきて、それが自然に大倭の縁に繋がってゆき、そして目に見えぬ存在を感じながら「神ながらの道」に気づくことが数多くありました。

退職後私は、飯田グループでご縁を頂いたモラロジ（道徳科学）のボランティア活動をお返しの人生にしておりますが、この道も法主様から教わった「神ながらの道」に通じています。

私たち人間は天地自然の法則に「生かされて生きていく」ことに気づき感謝し、人間として踏むべき道である道徳を実践し、道徳的な家庭づくり、国づくりを通して世の人々の幸せに貢献するというのがモラロジの道です。私の生きる原点である「大倭神ながらの道」に従い、第二の人生を真っ直ぐ生きようと願っています。

# A W T C 日誌

3月15日 大倭神宮月次祭。

邑の草創期、農耕用の牛が括られていた「牛つなぎの松」が枯れ、17日に宝来館の枯れ杉と共に伐採のため、教長さんがご挨拶のお参りをされました。見えにくいですが、写真手前、石圍いの中が2代目の小松です。



夜、交流の家でF I W C定例委員会。2月25日〜3月7日、

「茂毛路園」内覧会のため、祭典も早めに終えました。

3月21日 「9条ビー スウオーク」の参加者21名が紫陽花邑に一泊しました。夜は地元「9条の会」のメンバー、邑の有志達との交流会も行われ、22日朝、出発。  
3月22日 あじさいの箱総会 懇親会で一年間の活動会計 近況報告。新設「茂毛路園」の見学等に17名が参加しました。  
3月23日 大本宮月次祭。

中国湖南省鳳凰市H E K U村でワークキャンプをしました。  
3月16日 京都北山教会で杉本朝順さんと勝股利恵さんの結婚式が行われました。

3月20日 大倭会館で水野勝美さんの五十日祭と偲ぶ会が開かれ60数名が参加しました。

3月21日 「9条ビー スウオーク」の参加者21名が紫陽花邑に一泊しました。夜は地元「9条

の会」のメンバー、邑の有志達との交流会も行われ、22日朝、出発。

3月22日 あじさいの箱総会 懇親会で一年間の活動会計 近況報告。新設「茂毛路園」の見学等に17名が参加しました。

3月23日 大本宮月次祭。

4時から大倭会館で大倭会幹事会。来年度予算と今年度決算報告、役員改選がありました。

3月26日 大倭病院会議室で大倭病院と大倭大本宮の予算会議が開かれました。

3月30日 夜、大倭会館で大倭町自治会の総会。

4月2日 夕方から西斎庭で大倭殖産社員さん達のお花見会が開かれました。

邑内の桜の下、散歩の人が多い今日この頃です。

4月4日 夕方、東京都多摩市の甲野善紀さんが関西に来たついでと来邑され2泊。「介護における体の使い方」等を有志が指導して頂きました。

4月5日 奈良パークホテルで邑交會。  
夕方より西斎庭で大倭印刷社員さん達がお花見会。昇ちゃんもいし事ありそでなさそで心騒ぐ春ですが、ここで仲間に入れてもらいました。  
4月6日 大倭神宮月次祭。  
夜、大倭会館で邑後の会。  
この日、手毬教室の皆さんから大本宮拝殿に、生前の法主さんや大倭紫陽花邑の記録映像を皆さんに見て頂きたいと、52インチのテレビが寄贈されました。  
4月8日 須佐緒祭。祭典後、拝殿の庇で園遊会。名残の桜を愛でました。  
4月10日 大倭滝の峯荘の20余名がお花見に来られ、大倭会館

でお弁当を食べられました。  
**卒業・入学** 竹本良成君 矢追登美香さんは中学校へ、中島木綿貴さんは専門学校を卒業して就職。おめでとうございます。  
**大倭安宿苑では**  
3月21日 大倭墓地慰霊祭。  
3月29日 4月1日開園に先立ち「特定施設入居者生活介護ケアハウス茂毛路園」の竣工式。大倭安宿苑の守護霊 成謙坊さんに無事竣工のお礼の祭典も行われました。  
**(菅原園)**  
4月3日 イトーヨーカドー出張スパーで食料品などの買い物をしました。  
4月6日 苑内に咲いた満開の桜でお花見の昼食会。  
**(須加宮寮)**  
3月13日 好きなものを外注する希望食事で、テーブルには色んな料理が並びました。  
3月27日 作業納め会で労をねぎらい茶話会を開きました。  
**(長曾根寮)**

# A T M i C

\* 月次祭 (大倭神宮)  
5月6日 (火・祝) 午後2時より大倭神宮にて。

\* 大倭会主催第四七三回禊会  
5月11日 (日) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

\* 月次祭 (大倭神宮)  
5月15日 (木) 午後2時より大倭神宮にて。

\* 月次祭 (大本宮)  
5月23日 (金) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

3月10日 マジックショー (デイスーパー)。 (写真上)

(八重垣園)  
3月23日 地域交流会にご家族、地域の方の参加を頂き、会食やゲームで楽しみました。

**投句箱より** 「初デート坂の思い出興福寺」 「好きな人朝まで寝ずに手紙書く」 「藍青の空の深みに春の月」

**俳句の風物** 上田森彦 (97歳)  
遠足のおくれ走りつながらし

高浜虚子  
遠足は春の季語。小学一、二年生は街の歩道や郊外を、幼稚園児は遊園地や動物園を。初めての遠足は傍目にも楽しい。  
ぞうさんのウンチも見えてきた  
えんそく (自由律) 森彦

「上田さんは、八重垣園に移られました」

第298回 大倭会文化行事  
**大阪中之島の「適塾」と食事会**  
幕末多くの人材を生んだ「適塾」と軽い食事会

**日時** 平成20年5月18日(日)  
午前11時20分

**集合場所** 大阪中央公会堂レストラン前  
大阪市北区中之島1-1-27  
電話 06-6233-3580

**交通** 近鉄学園前駅難波行快速10時12分発に乗り10時38分難波着、地下鉄御堂筋線約5分、淀屋橋下車。徒歩7分。

**ルート** ネオ・ルネッサンス様式の大阪中央公会堂で昼食会……適塾……付近散策

**問合せ** 湯浅芳郎 090-6987-5847(携帯)



4月10日 大倭滝の峯荘の20余名がお花見に来られ、大倭会館